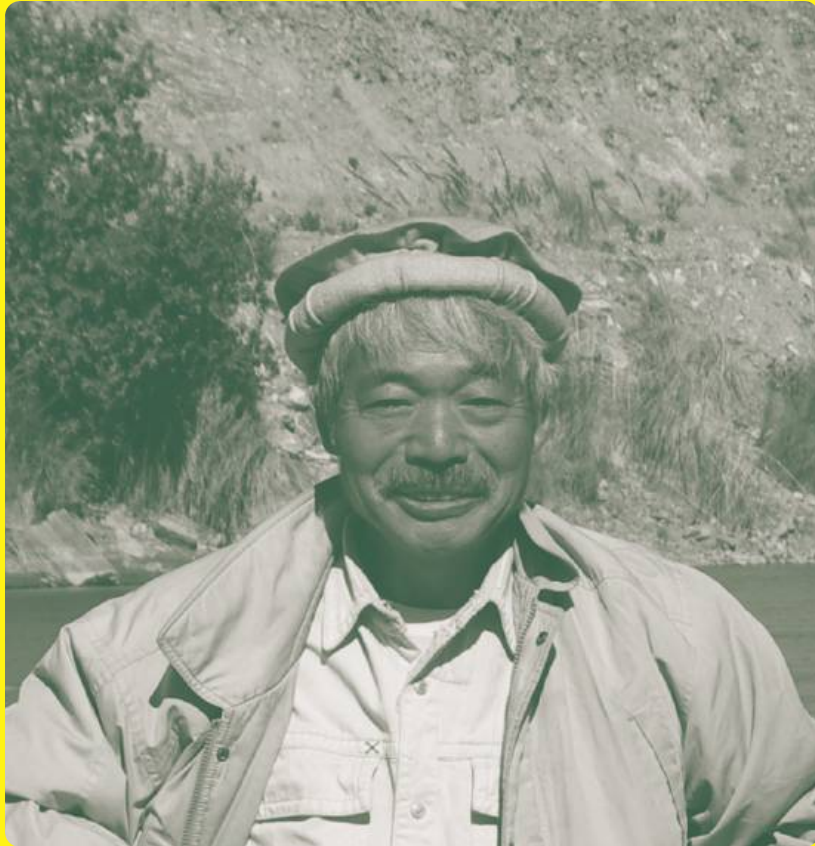


目の前の人にできる限りのことを！

～中村哲さんとペシャワール会の活動をふりかえる～

「誰ひとり取り残さない」というSDGsとつながる思いを、生涯かけて体現した日本人がいることを知っているだろうか？

ひとりの日本人医師が、「目の前で苦しんでいる人を助けたい」という一心で始めた行動は、いま、大きな木となって広がっている。



中村哲さん（1946～2019年）

戦地で30年以上、
医療活動に尽力する

アジアにあるパキスタンとアフガニスタンという国では、長らく紛争が続き、病気やけがをしても満足に治療を受けられなかった人々がたくさんいた。その人たちのために、30年以上も医療活動をした医師こそ、2019年に亡くなった中村哲さんだ。

それだけではない。水不足で苦しむアフガニスタンの人々のために数多くの井戸を掘り、灌漑事業

を行なって、現地の人々の無数の命も救っている。

中村さんが最初にパキスタンに渡ったのは、1984年のことだった。日本で神経内科医として働いていた中村さんは、日本キリスト教海外医療協会（JOCS）から派遣され、パキスタンのペシャワールに赴任する。ペシャワールはかつてガンダーラと呼ばれ、シルクロ

ードを通じてギリシャの彫刻と仏教が会い、お寺などで見る仏像が生まれた地だ。そこではおもに、パキスタンの人々や隣国アフガニスタンから逃れてきた難民のハンセン病治療にあたることとなった。



分水路への送水開始を喜ぶ中村哲さん。

ハンセン病は、古くからある感染症で、治療薬ができた後も発症者はいわれのない差別を受けることも多かった。

当初、このプロジェクトの任期は3年間の予定だったという。だが、紛争によって医療体制が崩壊していたアフガニスタンの惨状を目にした中村さんは、アフガニスタンのすべての人が安全な医療を受けられ

想像してみよう！ 未来の地球・暮らし・経済・学校生活

SDGsが掲げる目標がすべて達成されたら、はたして世界はどのように変わっているだろうか？ ここで未来に目を向けて、想像のつばさを広げてみよう。

ここまで、SDGsの掲げる理念や、さまざまな取り組みを紹介してきた。それらを読んでSDGsへの理解が深まったのではないだろうか？

この4章では、もしSDGsの掲げる17の目標がすべて達成できたとき、地球や世界はどんな姿になっているのか、想像を広げながら紹介してみたい。

その未来は、若い読者のみなさんが大人になったときの地球であり、世界だ。もちろん、未来のことは誰にもわからないし、実際、SDGsの目標がすべて達成できるかもわからない。だが、**自分たちが大人になったとき、どんな世の中になっていてほしいのかを想像するのは、意味のあることだ。**

SDGsは「未来の世界の目指すべきカタチ」を示したものだ。だからこそ、理想を想像することは、きっと大きな一歩になるだろう。

想像してみよう！ 地球の未来

SDGsのゴール13「気候変動に具体的な対策を」やゴール14「海の豊かさを守ろう」、ゴール15「陸の豊かさも守ろう」などが達成できたとき、地球はどうなっているだろうか？

地球温暖化はなんとか食い止められて、南極や北極の氷縮小はゆるやかになり、海に沈む島なども減るはずだ。また、巨大な台風や干ばつなどの異常気象も少なくなることが期待できる。

海では、海産物の捕獲をめぐる海洋資源が枯渇しないようにバランスをとり、さまざまな魚や生き物がいきいきと暮らすようになっているだろう。

一方、陸では、乱暴な開発をやめ、さらに森林を増やしたり、砂漠化への対処をすることで、陸上生物や鳥などの絶滅危惧種も減る。これによって生物の多様性が保たれ、生命の環わが続いていく。その

際、近くに住む先住民の人々の生活や文化も同時に守られる。

想像してみよう！ 暮らしの未来

SDGsの目標が達成されると、わたしたちの身近な暮らしも大きく変わる。

たとえば、電気は再生エネルギーの使用が主流となり、レジ袋やテイクアウトの容器、洋服、生活用品のリサイクルなどを通して、む



だを減らし資源を守るようになる。これはゴール7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」やゴール12「つくる責任 つかう責任」をめぐるみんなの努力で実現できる。

また、都市部では環境への負担を減らすため、できるだけ公共交通を使うことがより一般的になっているかもしれない。あるいは、環境にやさしい自動車や、障害の有無や老若男女を問わず使いやすい

新しいタイプの移動手段が生まれているかもしれない。そして、あまり二酸化炭素を出さない低炭素都市であると同時に、**若者も老人も暮らしやすく、それぞれがゆるやかに支え合っているような都市が増えている**だろう。そんな街は、地震や噴火などの災害にも強い街だ。その実現を目指しているのが、ゴール11「住み続けられるまちづくりを」だ。

想像してみよう！ 経済の未来

SDGsが達成されれば、みなさんが大人になったときの働き方も変化しているだろう。

満員の電車に乗って通勤するようなスタイルは少なくなり、時差通勤や自宅での勤務が普及しているだろう。また、産休や育休制度が充実することで、誰もがワークライフバランスに配慮した働き方が

できる社会になっているだろう。そして、ひとりひとりの多様な違いがユニークさとして大切にされ、それぞれのよさを生かして働けるようになる。これは、ゴール8「働きがいも経済成長も」が目指しているものだ。

未来の話だけでなく、すでに**現在、先進的な企業はSDGsを新たなビジネスチャンスと考え、積極的に取り組んでいる**。環境にやさ

